



平成26年10月20日
京都市立桂坂小学校
校長 林 正 幸

10月 特別号

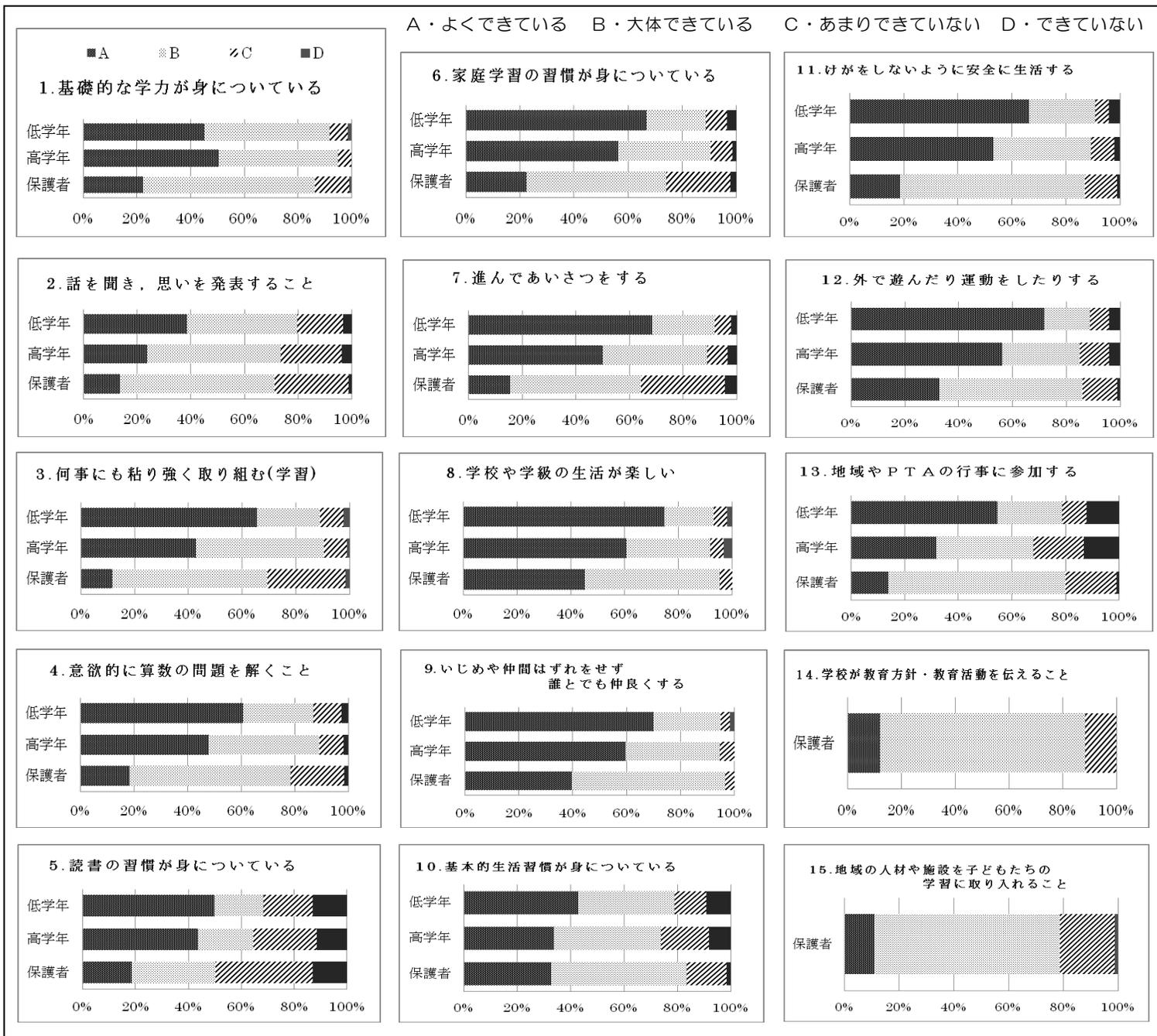
Email:katsurazaka-s@edu.city.kyoto.jp



このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものを目指しています。



学校生活について(ふりかえり)アンケート結果【前期】【児童・保護者アンケートより】



【確かな学力について】

項目1～6の中では、「5. 読書の習慣が身についている」において、低学年・高学年・保護者とも一番低い評価が見られました。昨年度も同様の結果が見られ、生活の中に読書をする余裕がないのではと考えられています。全国学力調査、ジョイントプログラム等の結果も良好で、家庭学習の時間も全国平均を上回っていることから、なかなか読書の時間がとれないかもしれませんが、知識の幅を広げたり感受性を養ったりするためにも読書に親しむ態度を育てていきたいと思えます。また「2. 話を聞き、思いを発表する」についても他の項目より評価が低くなっています。今後も国語科だけでなく各教科において話し合い活動を取り入れた授業をしていく必要があると考えられます。また全体的に平均すると評価は悪くないのですが、児童の評価よりも保護者の評価が低いことから、個々の課題はたくさんあると考えられますので、実態に応じた課題改善に取り組んでいきたいと思えます。

【豊かな心について】

7～9の項目の中では「7. 進んであいさつをする」の保護者の方の評価が低くなっています。「声かけ運動」等で地域の方にもお世話になっており、学校・保護者・地域ともに取り組んでいくべき重要な課題であると思えますが、児童の評価から見てもわかるように高学年になるにつれて挨拶ができにくくなっているようです。前期の終業式でも話をしましたが「先大見笑(先に大きな声で相手の顔を見て笑顔で)」を意識して、高学年が率先をして気持ちのいい挨拶ができるように、今まで以上に学校全体や各学級で指導していきたいと思えます。

【健やかな体について】

「10. 基本的な生活習慣が身についている」の項目では特に高学年児童の評価が低くなっています。家庭生活における食事や睡眠時間などの生活リズムの乱れは、学校生活の充実や学力向上の妨げになります。心身ともに健全に学校生活を送るためにも早寝早起きを始めとする基本的な生活習慣が定着するように指導していきたいと思えます。

今回の結果をもとに、今後も一人一人の学校生活をより豊かにしていけるように教職員一同取り組んでいきたいと思えます。保護者の皆様・地域の皆様にもご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

